

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AU310／文学講義 410 (Lectures on Literature 410)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	小説創作論2		
担当者名 (Instructor)	陣野 俊史(JINNO TOSHIFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	PCW2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

いま、日本で小説を書くということに必要な幾つかの問題を(体験的に)話していくので、そこからさらに自分にとって必要なことを身につける。実作と批評と批評理論をできるだけ広く紹介する。

In this course, we will read various texts that represent Japanese literary criticism.

授業の内容(Course Contents)

講義担当者は長年、日本で「文芸批評」を書いてきたが、この数年、数本の「小説」を書いた。あと数年、小説を書くことになるだろう。なぜ、いま、小説を書くことにしたのか、何が小説を書かせているのか、ということ講義の最初に話したうえで、現代日本文学の担い手の中で学生にとって大切だと思われる作家を紹介し、その技法や思想について解説します。さらに、文学理論のなかで大切と思われるものを幾つか紹介し、理解してもらおうと思います。

We will read Sayaka Murata, Tomoyuki Hoshino, Yusuke Kimura, Risa Wataya and Korean modern Literature etc.

授業計画(Course Schedule)

1. フェイクの時代に、どうして小説を書く必要があるのか(1) ウンベルト・エーコの晩年の作品から
2. フェイクの時代に、どうして小説を書くという選択をしたのか(2)～体験的小説論
3. 星野智幸の「新しい政治小説」について
4. 木村友祐の小説をめぐって(できれば「幼な子の聖戦」について)
5. 綿矢りさの近作について 『かわいそうだね?』など
6. 韓国の現代文学について 『女の答えはピッチにある』まで
7. 村田沙耶香『生命式』、『コンビニ人間』以後
8. 津村記久子論～日常を描くヒント
9. 批評理論(1) 精神分析批評
10. 批評理論(2) クリア理論とジェンダー批評
11. 批評理論(3) ポスト・コロニアリズム批評
12. リアリズムについて～ラシュディとウエルベックを隔てるもの
13. アフリカ文学と総称される文学について
14. ミラン・クンデラの語る「継続性」と「複数性」

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

基本的に予習は重要ではありませんが、各回の内容を先取りして、自らその作家のテキストを手にするをお勧めします。大事なのは、授業のあと、授業で言及された理論や小説を、具体的に調べること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/毎回提出のリアクションシート(65%)
毎回、リアクションシートを提出すること。これが最終レポート以外の得点となる。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

